

【翻刻】

四月八日

一、御当職より左之通差紙到来、六位座へ廻ス

被申達候儀有之候間、

明九日四つ時御当職江可被

罷出候（上脱カ）以

四月八日 藤木上総介

四座中

一、御当職へ昨日之差紙ニ付、河原崎幸馬・神原信濃兩人

出ル、兼官藤木上総介被申候者、来ル十五日於礼堂ニ

東照宮様式百年御神忌執行候、百五拾年御神忌

之節、日記ニ四座耆人つゝ出勤有之候様相見へ候間、此度も

耆座方耆人つゝ出候様、尤先年之通五位袍着可被致候との事、

幸馬申ハ、先年者私仲間兩人、神原庸助・河原崎主水兩人

出勤仕候、尤袍も式人前其節御渡被下候事、私之日記ニ見江

申候間、何卒此度も兩人出勤致度と申候処、

藤木被申ハ、神供数も無之候間、耆人出勤可被成と被申、

銘々冥加之ため出勤仕度旨ニ候間、兩人出申度と申候処、

御用ニ無之候事故是ハ耆人ニ而宜との事、

先年者際目村之堤四月十五日之夜五つ時分ニ切候而、出水之

内ニ而之出勤ニ付、大ニ混雑之中故、式人つゝ出勤之積りニ候処

無抛所勞之者等も有之、耆人出候仲間も有之候事故、此

度之儀も兩人つゝ出勤御願申度と申候処、何分ニも耆人ニ而

宜と被申候ニ付、無是非退出

※傍線と読点はHP 記事執筆者による。

『他姓座日記』明和二年四月七日条〜十七日条

【翻刻】

四月

七日、他姓座中老人御当務へ罷出候様ニ申来ル、求馬罷出候所 御当職様被仰渡候品ハ、来ル十七日^③

権現様百五拾年御神忌、宿院礼堂ニおいて

執行候間、四座中老座方兩人宛出勤可有之候、神

供者諸事前備候間、随分早朝方出勤可有之候、

尤御神前御国忌相済候後之事ニ候得共、御神前ハ

例方ハ早朝方執行候也、四座中休息所も有之候得

者早朝方被相詰可然候、装束之儀ハ五位浄衣

狩衣何レニ可致哉相定り申不候条、追而可申達候、

右御請申帰ル、求馬・主水ハ楽方ニ出候ニ付不参、小六ハ

障り有之候故、用介・中書出候筈也

(中略)

十五日大雨(中略)

十六日大雨、昨夜方大川筋洪水ニ而申刻際目村堤切候而

町内迄入水来ル(中略)

十七日晴曇、御神供忌執行候也、^⑤楽方等水入場

之衆通路無之候ニ付不参候、志水神原之衆人出勤也、

社務 三家共御出勤 神官中紀和泉守・同左近、

所司中 片岡左衛門大尉

^④四座 他姓神原庸助・河原崎主水、六位森元内匠、

大祢宜能村大藏、小祢宜奥村主膳

山上僧衆拾七人、承知・仕丁・宮守四人、

楽人森元助左衛門・同喜太郎・喜喜多村与七郎

溝口椽人・宇野田大藏・中村味左衛門・斎藤忠左衛門

(中略)

八ツ時相済、各神拜等相済退出

※傍線と読点はHP 記事執筆者による。